生物と気象（*Climate in Biosphere*）21：42−43, 2021

学会称号フェローの違い

髙倉　直

（ 東京大学・長崎大学名誉教授 ）

1．はじめに

ここ数年の主な仕事は，デジタル終活である。これまでも，その職場を離れるときには，それまで持っていた学会誌や蔵書を出来るだけ，その職場に寄贈することを原則としてきた。残っていた物は最後の職場の沖縄県農業研究センターに寄贈し，手元には数冊の著書しかない。寄贈されてきた学会誌は J-Stage で読むことが可能なので，すべて辞退している（髙倉, 2020）。スライドのデジタル化，賞状賞牌の PDF も作り終えた。デジタル化が済むとオリジナルは廃棄することにしているが，3 つだけ手元に残っている，その 1 つが，1988 年の ASABE の Fellow 認定証である。日本の研究者会員は百人程度と思われるが，現在 Fellow は 3 名で，その最初であった。当時の国内の関連学会には同様な制度はなく，朝日新聞では名誉会員として紹介された。

その後，わが国でもいくつかの学会で相次いでフェローの称号制度が始まった。会員の大幅な減少もその引き金になったのではないであろうか。当学会も 2016 年度から行われている。その規程は下記のようになっている。推薦制度をベースに，規程から年齢制限と表彰や受賞が条件となっている。その名称が示すように，この制度は欧米のものを見習ってのものであり，その規程は各学会が決めたもので，その扱いもいろいろで，あいまいである。当学会の場合は永年功労会員一覧の中で永年功労会員（フェロー）とあるけれども，会則からすればおかしなことであるし，正確には 2016 年度以前の永年功労会員はフェローではないはずである。

日本農業気象学会フェロー授与規程

1．会則第 1 章第 4 条 2，第 2 章 5 条 (6) に基づき本規程を設ける。
2．本学会における継続的な活動を通じて農業気象学の発展に顕著な功績のあった会員に対し，フェローの称号を授与する。
3．この表彰は，以下のいずれかに該当する会員を対象とする。
　永年功労会員表彰を受けた会員
　学術賞，普及賞または功績賞を受賞した 55 歳以上の会員
4．総会で授与式を行う。
　（付則）本規程は 2016 年度から適用する。

https://agrmet.jp/wp-content/uploads/2021-H-1.pdf
2021 年 2 月 26 日　受付
Copyright 2021, The Society of Agricultural Meteorology of Japan

2．ASABE（米国農業・生物工学会）

Fellow に選ばれた数年後，各分野から選出される Fellow 選考委員会委員を 5 年務め，最後の 1 年は委員長であった。推薦制度であり，被推薦者の年齢制限はないが，会員歴が 20 年以上，この分野で 20 年以上の顕著な活動が条件である。約 10,000 人の会員の 2% 以内という条件もあるので，毎年，亡くなられた人の数を補充するような形となっている。推薦される会員は毎年 20 名前後と多く，Fellow を含む数名の推薦状と 20 ページ前後の業績などの調書を提出する。数か月をかけての書類審査となるが，大会時に 5 名の委員が集まって，最終結論を出す仕組みである。推薦は翌年まで有効であるので，競争率は 3 倍を超える場合もある。ただ，持ち越された場合は，多くて 1 名の推薦になる場合がほとんどであった。

毎年選ばれると，顔写真と業績要旨が発表され，大会開催時に授与式が行われて，Fellow 名簿に名前が記載される。我が国のような名誉会員制度はないので，それに匹敵するといえるであろう（ASABE, 2021）。一昨年，25 年ぶりに東京農工大学酒井憲司教授が受賞したと報告されている（東京農工大学, 2021）。

3．ASHS（米国園芸学会）

当学会には施設園芸部会があることでも明白であるが，園芸学会ともつながりが深い。ASABE ほどではないが，その規約は日本の関連学会よりきびしく，非推薦者は 10 年間の会員と顕著な活躍が認められるもので，推薦制であること，また全会員の 10% ということが規定に記載されている。昨年，久保田智恵利・オハイオ大学教授・環境調節センター長が日本人で初めて受賞している（ASHS, 2021: https://ashs.org）。

4．日本農業工学会

現在は関連 10 学会から構成されているが，フェロー制度は 1999 年に始まっている。その規定は下記のとおりであるが，かなりあいまいな表現である。現在は関連学会からの推薦によっているようで，その人数も多く，名簿には辞退者の名前も記されている（日本農業工学会, 2021）。

日本農業工学会フェロー規定

細則第 2 章第 11 条　本会に名誉顧問及びフェローを置くことができる。2. 名誉顧問は理事会の推薦によって会長が委嘱する。名誉顧問は理事会の諮問に応じ，助言することができる。3. フェローは理事会の議を経て授与される。フェローは役員ではなく，顕著な功績のあった者を顕彰する称号である。日本農業工学会が返還を求めない限りフェ

ローの称号を保持することができる。

5．おわりに

農学系，特に工学系でフェロー制度や学会賞の種類が増えた背景には会員数の減少があると思われる。当学会の会員数は 2007 年には 1,000 名を超えていたけれども，その後，大幅に減っている。学会名の変更も同じ理由であろう。2007 年農業土木学会が（公社）農業農村工学会に，2013 年には農業機械学会が（一社）農業食料工学会に変更されている。当学会でも，学会名の変更は検討されたようであるが，変更されなかった。

（公社）農芸化学会では 2014 年にフェロー制度が設けられているが，その規定は 10 条からなり，明確である（公益社団法人 日本農芸化学会, 2021）。

農業工学系では各学会に名誉会員，永年功労会員，さらにフェロー制度，それをまとめるような農業工学会にもフェロー制度があるのは会員増につながるのであろうか。

引用文献

ASABE, 2021: https://www.asabe.org

ASHS, 2021: https://ashs.org

公益社団法人 日本農芸化学会, 2021: https://www.jsbba.or.jp

日本農業工学会, 2021: www.jaicabe.org

髙倉　直, 2020: 電子化の利点と問題点. 生物と気象, **20**, 38–39.

東京農工大学, 2021: https://www.tuat.ac.jp/NEWS/visit/